令和６年度 第１回京都府戦略的地震防災対策推進部会地震対策専門家会議の開催結果について

１ 開催日時

令和６年４月 24 日（水）10 時 15 分から 11 時 00 分

２ 場所

京都府危機管理センター災害対策本部会議室

３ 出席者

（委員）

牧会長、窪田委員（web）、越山委員、髙階委員(web)、松井委員、奥田委員、松本委員(web)

※上野委員、重田委員、松下委員、廣瀬委員については代理出席（web）

（事務局：危機管理部）

南本危機管理監兼危機管理部長、坂根副危機管理監兼副部長、澤熊防災監、松村副部長、小松理事、森田危機管理総務課長、武部消防保安課長、古橋企画参事、福井災害対策課参事、廣中災害対策課係長

４ 議事の概要

〇冒頭に南本危機管理監兼危機管理部長より挨拶

〇会長に推進部会の部会長である牧委員を選任

〇開催にあたり牧会長より挨拶

・指針の見直しについて被害想定と能登半島地震を踏まえて専門家の方々にはいっていただき検討していく。

・観点としては、耐震化を進めていくこと、津波からの避難の継続的な実効性確保は引き続き進めていく。

・能登半島の地震を踏まえれば、1.5 次避難所を踏まえた高齢者支援や大規模な自治体相互支援への対応などを考えていく必要がある。

〇牧会長の進行により議事進行

（１）京都府戦略的地震防災対策推進部会地震対策専門家会議について

事務局より資料１により説明。

（２）花折断層帯地震の被害想定の見直しについて

事務局より資料２、資料２－１、資料２－２により説明。

（３）危機管理センターの代替機能の検討について

事務局より資料３により説明

（南本危機管理監より補足説明）

・危機管理センターは災害時には様々な災害対応の関係者が集まり、意思決定する重要な拠点となる。この機能を災害時でも維持できるのかという観点で実施したもの。

（牧会長より補足）
・この建物被害は倒壊するかしないかの観点で計算したもので、倒壊する建物は少ないという結果が出たが、全壊となる建物が少ないわけではないので留意いただきたい。
・危険な状態にならない確率が 93.5%、ただし熱・煙のえいきょうを受ける可能性はある。その場合でも 24 時間後には使えるので、その間の代替施設を考えておく必要がある。
・火災については 300 箇所ほどランダムで出火したと仮定し、影響を考慮したもので、危なくならない確率が 93.5%となったが、１箇所でも起きたら危なくなる可能性もあるので、司令塔機能の維持を考える必要がある。

（４）京都府戦略的地震防災対策指針及び推進プランの改定について

事務局より資料４、資料４－１により説明。

【質疑・意見】

（窪田委員より意見）

・この指針を作って評価を行い、進捗状況を社会とも共有し、関係者とも共有していくっていうこと、引き続きやるのだろうと思います。現在の計画では、ダッシュボードという方法なんかを取り入れて、カラフルで分かりやすい手法をとっているが十分にこの府民の皆様ですとか関係者に共有されているのかというと、まだできることもあると思う。共有の仕方、社会への発信についてはより工夫する必要があると思う。
・１つは EBPM（エビデンスベースドポリシーメイキング）という証拠に基づく政策形成の考え方で、いわゆるロジックモデルというようなものを作って、どのような資源投入をして、行政なり関係の方がどんな活動をするのか、そしてその結果としてどういうことを生み出すのかというようなことを、簡単な図式のようなもので示したり、進行管理ができないか。
・もう１つは動画などで進捗の状況や次の取組を府民に発信できないか。

→（事務局）意見として今後検討していく。

（越山委員より意見）

・被害想定の見直しの結果、被害の量が減ってるので、それを見直して計画を見直すということは、あまり直さなくてもよいのではないかという形で進むと思う。しかし今回、見直しするのであれば、どのような視点を重視するか考える必要がある。被害想定は花折断層帯地震という１事例を想定したに過ぎず、その被害をどのように削減していくかという対応目標、仕組みを京都府が作ること。これは住民の仕組みもあればその要請の仕組み、レスポンスが返ってくる仕組み、そのレスポンスが可能となるハードの整備という全体の話となり、これまでの指針・プランを前進させていけばよいのではないかと思う。
・一方で花折断層帯の被害想定では能登の被害は見えない。能登での課題も別に指針に埋め込む必要がでてくるのであれば、北部のことも考えなければならないので、個別の対策を検討し、またその対策をどのように進めていくか、その項目立てが重要になってくると思う。

→（事務局）
　ご指摘の通り、総量では被害想定の見直しは耐震化の進展等により軽減したという結果が出るのは当たり前ではある。備蓄などは総量をもとに目標を立てるので当然関係する部分もあるが、今いただいた意見は説明した主な論点という位置づけとしている。この論点となる問題意識についてぜひ委員の方々には意見いただきたい。

（松本委員から意見・要望）

・京都府北部地域に大きな影響のある断層は、三峠断層やとか上林川断層など、震度 7 程度の大きな被害を及ぼすことが予想される断層が 6 つ存在をしている。現在の福知山市地域防災計画におきましては、 いずれも平成 20 年に公表された京都府の被害想定を元にその対策を検討しているが、この間、過疎、高齢化の進展等もあり、地域の人口減少であるとか地域の状況が当時と比較して大きく変化してきている。この度の能登半島地震の発生も踏まえ、新たな被害想定に基づく各市町の具体的な対策の検討を早期に実施していく必要があると考えており、北部地域の被害想定を見直していただければ、今後の大規模地震対応の具体的な検討も進んでいくのではないかとに考えている。要望みたいな形になって大変恐縮であるが、ご検討願いたい。